

「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学文学部・研究科2年 高橋彩音

今回の派遣に参加して、語学というものの重要性に改めて気づかされた。何をしようにも、それこそ生きるためには、会話が不可欠であった。朝ごはん一つ食べるにも、メニューに書いてある料理がなんなのかわからない上、いざ注文しても聞き取ってもらえない。頑張って注文できたかと思えば、出てきた料理は思っていたものと違ったり…。まずかったりする。日々外国語を聞く、話さざるを得ないじょうきょうになる、これが語学力上達の最短のルートなのだと思身を知った。使わなければならない言語には自然と興味はわき、上達もする。中国語で受ける中国語の授業はかなり面白かった。京大の授業では少ししかやらない補語を詳しくやった。京大では5種類程度しか習わなかったが、現地では20種類以上教えられた。そんなに種類があったとは驚きで、正直覚えきれなかった。また、京大では、「覚えなさい」としか言われなかった保護の感じ一つ一つの意味も教えてくれた。こういう動きをするからこの漢字を使うのだよと、こういう考え方の下この字を使っているのだよと説明はとても詳しく、覚えやすかった。クラスメートも皆留学生なので、異国の地にいるという感覚は分かち合いやすい。一緒にご飯を食べに行ったりして、2週間という短期間ながら仲良くなった。ワンピースなど漫画の話で盛り上がった。日本といえばやはりアニメなのだ実感するとともに、この国にはこれという象徴があることは国際交流においてとても重要になってくるのだとわかった。向こうが日本のことをこれほど知ってくれているのに、自分が相手国のことをほとんど知らないことに少し恥を覚えた。日本人大学生の不勉強がうかがわれる。大学で行う留学ということなので、自分以外に日本人がたくさんいることはかなりの安心感になった。外国語に疲れた時は、日本語の通じる友がいることは、ストレスを溜め込まないためにもいいことだ。宿泊先である留学生寮は、ほぼホテルだった。アメニティが付いて、部屋の清掃・ベッドメイキングも3日に一回してくれる。正直京都の我が家より快適であった。今回の派遣で、いろんな留学生や中国語に真面目に取り組む東大生に出会って、私も中国語を頑張ろうと思った。聞き話しできるようになれば、実用的だし格好いい。この経験を生かして、中国語を継続していきたい。